

子ども

子どもたちの持っている人権について考えてみたことはありますか？「子どもは半人前」「子どものくせに生意気な」そんな言葉を耳にしたことがあるでしょう。子どもも同じ命を持った一人の人間に変わりありません。子どもにも大人と同じように考え、意見を述べる権利と、一人の人間として幸せになる権利があるのです。



高齢者

高齢者と青壮年、子どもでは生きてきた時代や環境が違います。ものの考え方や生活習慣など違っているのが当然です。それを「お年寄りはおかしい...、今の時代に合わない」とじゃまもの扱いにしたりすることはありませんか？お年よりは人生の先輩です。長い道のりを歩んできた経験と知恵があります。年齢に関係なく、お互いの考え方や生活習慣を理解しながら、ともに歩いていく気持ちを持つことが大切です。



同和問題

同和地区に住んでいることや同和地区出身であることを理由に、自由や権利を侵害されることが、今も身の回りでおきています。例えば、人生の門出である結婚は、だれもが、「祝福され、幸福な家庭を築きたい」と願うはずですが、差別意識によって、人を生まれた場所や間違った認識によって判断し、本人の意志とは関係なく、二人の結婚に反対するということが、現実におこっています。

外国人

国際化が進み、この藤井寺市にもたくさんの外国人の方が暮らしています。外国人というだけでマンションやアパートの部屋を借りられなかったり、会社に雇ってもらえないなど、心ない差別に傷ついている人も少なくありません。真の国際社会とは、お互いが違いを認め合い、尊重し合える社会なのです。



障害者

心身に障害のある人をじろじろ見たり、かわいそうにと哀れんだりしたことはありませんか？障害のある人は、同情されたり優遇されるのではなく、ともに未来をつくっていく仲間として社会に参加することを望んでいます。そのために、わたしたちはお互いに支え合える環境を築いていかなくてはなりません。

女性

「女らしく」「男らしく」は、家庭や社会の中から生まれた錯覚であることを知っていますか。「女は家庭、男は仕事」と性別で役割を固定してしまう考え方は、セクシャルハラスメントなどの性差別のもとにもなっています。「男らしさ」「女らしさ」をことさら強調するのではなく、「自分らしさ」を見つけて生きていきたいものです。



人権について みんなで考えてみましょう

わたしたちは、みんな一人の人間として、自分らしく生きていく権利「人権」を持っています。しかし、残念なことに現実には「人権」が侵害され、さまざまな差別問題が起こっています。

わたしたちが明るい藤井寺市をつくっていくために、
自分自身の心を見つめ直し、差別について考えてみましょう。



患者

医学は確実に進歩しています。しかしエイズなど、今なお治療が困難な病気に苦しんでいる人がいます。エイズウィルスは非常に感染力が弱いため、生活をともにしても感染はしません。しかし、病気への偏見から差別が起きています。病気に対する正しい知識を身につけ、差別や偏見をなくしていかなくてはなりません。



平和

戦後60年以上が経ち、日本では平和があたり前、戦争は遠い昔の話...、と考えてはいませんか。しかし、世界では今なお戦争が起こる危険性がありますし、またそれが世界的規模の戦争に拡大する可能性も少なくありません。多くの犠牲者を出した先の戦争のことを決して忘れることなく、平和をつくるために自分に何ができるのか考えていかなくてはなりません。

身近なところから考えてみましょう!

■『ユニバーサルデザイン』を知っていますか?

ユニバーサルデザインとは、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人利用可能であるように、まち・もの・環境などをデザインすることをいいます。

～身近なユニバーサルデザインの例～

■ シャンプー容器のギザギザ

目を閉じたままでも、シャンプーとリンスが区別できるよう工夫されています。目が不自由であろうとなかろうと、誰にとっても便利なデザインです。

■ ノンステップバス

床が低く、間口も広く、すべての人にとって、乗り降りしやすいデザインになっています。

すべての人に使いやすく工夫された「まち」や「もの」も、思いやりや助け合いの心がなければ、本当に生かすことはできません。いろいろな人の立場に立って考える「心のユニバーサルデザイン」が一番大切です。



■ バリアフリー

現在では、「障害をもつ人たちの社会参加を困難にしている、社会的・制度的・心理的な障壁を取り除く」という意味で使われるようになってきています。つまり、バリアを取り除くことによって、誰もが平等に参加できる社会がつかれるという意味です。

■ シルバーハラスメント

高齢者を対象とする虐待や介護拒否などをシルバーハラスメントといいます。虐待は、介護する側のストレスや閉鎖的な人間関係が大きな要因といえます。高齢者を支える人が限定されることで、こうした状況が起こりやすくなっているのです。虐待をなくすには、介護にいかに関わっていくかが大事です。

■ 全国統一応募用紙

就職活動のときに、履歴書に「本籍」を記入させ、出身地が理由で採用を取り消されたり、就職ができたとしても職場で偏見や差別を受けることがあります。すべての人が公正な判断のもとで就職の機会が得られるよう、「本籍」「家族」などの記入欄が削除されています。



藤井寺市では 人権のまちづくり を提案します

● 平和都市宣言

昭和60年9月27日

藤井寺市のまちづくりの基本条件は、日本国憲法の平和主義の理念を市民生活の中に反映させていくことです。そのため、藤井寺市では「非核三原則」の厳守を再認識するとともに、核兵器の廃絶を全世界に向かって訴えていきます。

● 人権を守る都市宣言

平成9年12月22日

私たちの生活の中に徐々に息づきはじめた「人権の文化」は、藤井寺市のまちのすみずみまでにも育てていかなければなりません。心豊かで、ひとりひとりが大切にされるまちに育てるため、だれもがしっかりと手をむすび合い、ともに学び、考え、行動していきます。

● 人権を守るまちづくり条例

平成13年4月1日 施行

藤井寺市では、社会生活の中で学校や家庭、市民組織、事業者などとの連携を密にし、人権を守るまちづくりを進めていくことを規定しています。

私たちが暮らすこの社会を、差別や偏見のない明るく安心して暮らせる地域社会とするためには、日常生活において、人権についての関心を持つことが大切です。

藤井寺市では、市民のだれもが自分らしくいきいきと、安心して暮らしていくことができる、そんなまちづくりの実現をめざして取り組んでまいります。

